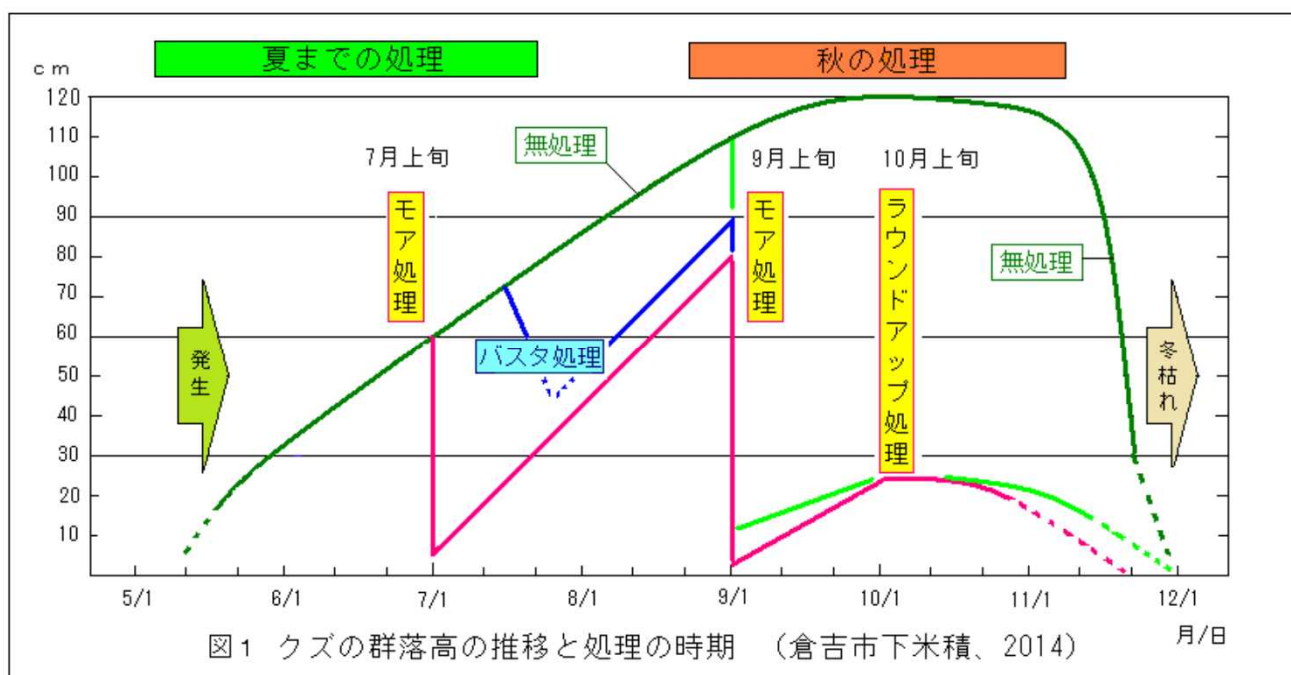


耕作放棄地に蔓延した クズの効率的な体系処理方法

クズは5月中旬頃から発生し始め、梅雨時期に生育が旺盛となり、9～10月に蔓延する。効率的にクズを処理するためには秋からの処理では遅く、夏までに処理を始めることが望ましい。



7月上旬と9月上旬の2回のフレールモア処理と10月上旬の1回のラウンドアップ(25倍液)処理の体系が効率的



フレールモア処理(7月上旬、9月上旬)



ラウンドアップ散布(10月上旬)

[具体的データ]

表1 「夏までの処理」後(9/1)の雑草量(風乾重g/m²)と草高(cm) (2014、倉吉市下米積)

区名	クズ				カヤ類					クズ以外小計	対無処理比(%)	合計	対無処理比(%)	草高cm
	生	枯れ	小計	対無処理比(%)	生	枯れ	セイヨウアザミ	カタムグラ	不明					
無処理	286	121	407	100	12.3	45.2	225	121	10.5	414	100	822	100	110
モア処理(7/1)	398	20	418	103	0.0	1.7	0.7	—	—	2.5	1	421	51	79
バスタ処理(7/16)	350	101	451	111	2.4	11.9	2.6	23	—	39.9	10	491	60	88

注1)クズ、カヤについては、その後の処理に影響があると思われるため枯れについても雑草量の小計に含めた。

注2)対無処理比は、それぞれ左の小計や合計の比で、無処理を100とした場合。

表2 「秋の処理」の9月1日モア処理以降のラウンドアップ処理時期等別のクズ被度(%)の遷移 (2014、倉吉市下米積)

夏までの処理	放任(無処理)	モア			バスタ	
秋の処理	モア&ラ25倍	モア&ラ25倍	モア&ラ100倍	モア&ラ25倍遅	モア&ラ25倍	
9月1日(備考)	モア(高刈)	モア	モア	モア	モア	
10月1日(希釈倍液)	ラウンドアップ25倍液	ラウンドアップ25倍液	ラウンドアップ100倍液	—	ラウンドアップ25倍液	
クズの被度(%)	9月29日	22.2	16.3	16.3	22.2	18.4
	10月15日	1.5	1.3	—	50.3	2.7
	10月23日	—	—	1.4	56.8	0.3
	11月4日	0.1	0	0.4	49.2	0
追加・遅処理	11月4日	—	—	スポット25倍液	ラウンドアップ25倍液	—
クズの被度(%)	(11月4日)	0.1	0	0.5	0.3	49.2
	11月7日	—	—	—	—	34.4
	11月19日	0	0	0	0	4.0
	12月4日	0	0	0	0	1
	12月23日	0	0	0	0	0

注1)放任(無処理)では、草量が多く、抵抗が大きいため、フレールモアの刈高さを高くする必要があった。

注2)「—」は無処理もしくは未調査を表す。

注3)クズの被度には緑色を呈す枯れる中途の部分も含まれる。

注4)スポットは、クズの取りこぼし株と新しく再生した株のみ対象としてラウンドアップを追加処理した。

表3 ロータリによる耕後後の掘り取り調査によるクズの細断長、太さ、密度、重量(絶乾重)等(2015.1.27、倉吉市下米積)

夏までの処理(月/日)	秋の処理(モア・ラウンドアップ(月/日))	作業速度m/s	土壌水分%	掘り取り調査(上段:地上部、下段:地下部)						巻き付き(〃)			換算総量	
				細断長cm		太さ	重量g/m ²		長さcm		太さ	重量g/m ²		乾物重g/m ²
				平均	合計/m ²	mm	乾物重	上下計	平均	合計/m ²	mm	乾物重	上下計	
無処理	無処理	0.196	31.8	8.1	812	5.0	19.6	60.6	44.8	360	3.9	8.5	30.1	90.7 (100)
無処理	モア(9/1)	0.200	41.9	19.7	0	4.0	0.1	22.2	82.2	45	8.8	21.6	—	22.2 (24)
モア(7/1)	ラ25倍(10/1)	0.203	40.1	13.8	3	5.0	0.1	8.5	13.3	33	16.7	8.4	—	8.5 (9)
モア(7/1)	ラ100倍(10/1)	0.205	36.6	—	—	—	—	16.9	—	—	—	—	—	16.9 (19)
モア(7/1)	遅ラ25倍(11/4)	0.193	42.1	—	—	—	—	42.3	38.8	104	27.6	42.3	—	42.3 (47)
バスタ(7/16)	モア(9/1)	0.204	38.8	10.9	11	4.0	0.4	13.4	10.4	28	20.0	13.0	—	13.4 (15)

注1)無処理区以外のいずれの区も11月4日の追加処理(表2)を行っていない場所で行った。

注2)供試機械はトラクタ(K社ZLi33、33ps)+ロータリ(N社CX-1608、160cm)、変速、Egrpmは一定。

注3)巻き付きはロータリへの巻き付き。耕後面積は1.6m幅、15m長で24m²で、m²当たりの値は単純な換算値。

注4)総重量の(左比)は無処理を100とした場合の比。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は、耕作放棄歴約20年の黒ボク畑において行ったものである。
2. 本試験で供試した除草剤は、バスタ液剤(100倍液、100L/10a)、ラウンドアップマックスロード(25倍液、25L/10a、100倍液、100L/10a)である。
3. 秋のモア処理後1ヶ月より早い時期に薬剤散布をすると、その後に再生してくるクズ個体もあるので散布時期に留意する。
4. モア処理の代替としてバスタ等の除草剤処理する体系も有効である。
5. 「夏までの処理」でのラウンドアップ等のグリホサート系除草剤の使用は、「秋の処理」と比較すると、クズへの効果が極端に低いので、その使用を奨めない。
6. フレールモア作業の留意点は、「耕作放棄地の効率的復元マニュアル」参照のこと。

問い合わせ先 : 鳥取県農業試験場 作物研究室
電話 : 0857-53-0721

※ 本書から転載複製する場合には必ず左記に許可を受けて下さい。